



平成 26 年 3 月 20 日
ストラスブール研究連絡センター

フランス高等教育研究省(MESR)

●「ローヌ＝アルプ・オーヴェルニュ(Rhône-Alpes Auvergne) 数学研究連盟の発足式」

2014 年 3 月 3 日、リヨンの Claude Bernard 大学においてローヌ＝アルプ・オーヴェルニュ数学研究連盟の発足式が行われ、出席したジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育研究大臣が、フランスの数学研究のダイナミズムと優秀さを称えた。

本連盟は、研究者の資質を喚起し、優秀な人材を集めること、また国際社会に開けた研究連盟にすることを目標に、表題地域の 6 つの研究所*を結集させたもので、460 名の研究者と 270 名の博士課程の学生およびポスドクが集う、フランス第 2 位の規模を誇る(1 位はパリ地域)。

フィオラゾ大臣は、「数学無しには、人工心臓も、気候変動のモデリングも、IT 技術の発展も望めなかった。数学は、科学の発展、イノベーション、雇用創出の源である。」として、フランスの数学研究の更なる発展を期待した。

*6 つの研究所:

Claude Bernard 大学(リヨン)の Camille Jordan 研究所

Joseph Fourier 大学(グルノーブル)の Fourier 研究所、Jean Kuntzmann 研究室

Savoie-Chambéry 大学の LAMA 数学研究室

Blaise Pascal 大学(クレルモン・フェラン)の LM 数学研究室

ENS Lyon (École Normale Supérieure de Lyon) の UMPA (純粋・応用数学研究所)

・フランス高等教育研究省 “Inauguration de la Fédération de recherche en mathématiques Rhône-Alpes Auvergne” (2014 年 3 月 3 日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid77458/inauguration-de-la-federation-de-recherche-en-mathematiques-rhones-alpes-auvergne.html>

フランス国立科学研究センター(CNRS)

●「CNRS、INNOVEOX と戦略協定締結」

有害産業廃棄物処理業者である INNOVEOX と CNRS が、資本・技術協定の更新に署名した。これにより、CNRS は INNOVEOX に超臨界条件下における熱水酸化(OHTS)プロセスでエネルギーを獲得する革命的技術に関する特許 2 件(「熱酸化による廃棄物*処理プロセス」と「熱水酸化による廃棄物処理施設の開始プロセス」)を移譲する。本特許は、CNRS のボルドー物性化学研究所で 20 年にわたって行われてきた研究の成果による。また、革新的技術の産業応用を手掛ける株式

会社、FIST SA が INNOVEOX の資本へ 3 パーセント参入する。

*廃棄物:特に危険な工業廃棄物(油、溶媒、農薬など)

・CNRS “Accord stratégique entre INNOVEOX et le CNRS : transfert de technologie et entrée au capital de FIST SA, filiale du CNRS” (2014 年 2 月 10 日)

<http://www2.cnrs.fr/presse/communiqu/3425.htm>

●「Alain Fuchs 氏、CNRS 会長を続投」

2014 年 2 月 26 日、閣議の際、高等教育研究大臣の提案により、Alain Fuchs 氏が CNRS 会長職を 4 年間更新することが決定した。氏は 2010 年 1 月 20 日に CNRS 会長に就任した。

同氏は、就任以来、CNRS と大学・グランゼコールの協力関係の促進や未来への拠点大学の設立に関与してきた。同氏の今期の目的として、フランスの研究の国際的な地位の向上とビジビリティ、分野横断的な見地からの研究テーマの刷新、研究成果の技術移転の 3 つを挙げている。

・CNRS “Alain Fuchs est reconduit à la présidence du CNRS” (2014 年 2 月 26 日)

<http://www2.cnrs.fr/presse/communiqu/3447.htm>

・CNRS Le Journal #275(2014)

フランス国立研究機構(ANR)

●「健康のためのトランスレーショナルリサーチ プロジェクト公募」

ANR と厚生省治療提供総局(DGOS)は、2013 年に、第一回「健康のためのトランスレーショナルリサーチ(PRTS)」共同プロジェクトの公募を開始した。その継続として、ANR の 2014 年行動計画目標には、「健康と充足」という分野で同じテーマが盛り込まれており、DGOS は 9 件のプロジェクト公募を含む 2014 年のキャンペーンを開始した。応募要綱等の詳細は、厚生省の HP から閲覧可能。

健康のためのトランスレーショナルリサーチとは、基礎研究の成果が迅速に、個人および公衆の健康、および患者の治療の研究に移転されるという概念を指す。

・ANR “ Recherche translationnelle en santé : ouverture de l’appel conjoint entre la Direction Générale de l’Offre de Soins et l’ANR ” (2014 年 2 月 19 日)

<http://www.agence-nationale-recherche.fr/informations/actualites/detail/recherche-translationnelle-en-sante-ouverture-de-lappel-conjoint-entre-la-direction-generale-de-loffre-de-soins-et-lanr/>

●「共同ラボ(Labcom)のプロジェクト公募」

公的研究機関と中小企業との間に創設する「共同ラボ」は、高等教育研究大臣の要望に従い、2013年に開始された。本企画は、公的研究機関と中小企業との間に組織的なパートナーシップの構築を促すことを目的としている。2014年のプロジェクト公募締め切りは11月28日で、応募順に審査が進められる。

・ANR “Laboratoires communs : Un instrument de financement ouvert au fil de l’eau” (2014年2月24日)

<http://www.agence-nationale-recherche.fr/informations/actualites/detail/laboratoires-communs-un-instrument-de-financement-ouvert-au-fil-de-leau/>

フランス国立農業研究所 (INRA)

●「Françoise Simon-Plas 氏、Inra デイジョン (Dijon) センター所長に指名」

2014年1月1日、Françoise Simon-Plas 氏が Inra デイジョンセンターの新所長に就任した。氏は、農業生態学ユニットの研究ディレクターを務めており、植物の防御メカニズムに関する研究を行っている。所長の任期は4年間。

同センターは、味と食品の科学、農業エコロジー、地域の社会経済の発展の3つのテーマを中心に研究を行っている。

・INRA “Françoise Simon-Plas nommée présidente du centre Inra de Dijon” (2014年2月12日)

<http://presse.inra.fr/Ressources/Communiqués-de-presse/Francoise-Simon-Plas-presidente-centre-Inra-Dijon>

●「南アフリカ共和国の農学研究評議会と研究協力協定締結」

2014年2月27日、Inra と南アフリカ共和国の農学研究評議会 (ARC) は提携協定に署名した。両機関は、2011年に Inra 代表者の南ア訪問と、それに続く交流を通して、友好関係を築いてきた。本協定は、牛のゲノミクスに関する両機関の研究協力関係を構築し、共同研究プロジェクトを進めることを目的としている。また、食の安全、持続可能な農業、気候変動の分野における国際イニシアチブへの参加も推進する。

ARC は、1990年に創立された、南アフリカ共和国の主要公的研究機関で、研究、R&D、農業・農作物・天然資源保護分野の技術転換と発展を手掛けている。

・INRA “L’Inra et l’ARC signent un accord-cadre de coopération scientifique” (2014年2月27日)

<http://presse.inra.fr/Ressources/Communiqués-de-presse/accord-cadre-ARC>

フランス国立情報学自動制御研究所 (INRIA)

●「Smart Cities に向けた CITRIS-INRIA-PRIME 提携」

2014年2月12日、InriaとCITRIS(ネット社会における情報科学テクノロジー研究センター、所在地:米国)、PRIME(米国の企業のイノベーションを支援する組織)は、都市の広範囲に関わる問題に対処するための実験研究の発展を加速させる Smart Cities 分野における協定に署名した。署名式は、Michel Cosnard Inria 会長、Sabine Enjalbert パリ・イル＝ド＝フランス発展地域機関局長、ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育研究大臣、Costas Spanos カリフォルニア大学 CITRIS 所長らの立会いの下行われた。

InriaとCITRISは2010年から‘知的都市’の名目で研究プロジェクトのコラボレーションを行ってきた。また、Inria、CITRIS 及び PRIME は、同じ名目で、都市データの民主化、知的な輸送システム、大気の本質とCO2排出に関する分析と認識などの、「Smart cities」の実現を目指すプロジェクトに取り組む。本3機関は、他の非営利機関、学生、研究者、新興企業、市、企業にも開けた共同プラットフォームを設立する。

・INRA “Un partenariat CITRIS - Inria - PRIME sur les Smart Cities”(2014年3月3日)

<http://www.inria.fr/actualite/actualites-inria/partenariat-citris-inria-prime>

フランス各紙

●「研究開発に携わる人材の減少」

2013年は、2009年以降で初めて、研究開発分野のポスト削減数が新規創設数を上回った(1165件の削減、1027件の創設)。この要因として、民間企業における、研究への投資不足が考えられる。フランスは、国内総生産の2.2%を研究開発に投資しているが、これは米国の2.7%、ドイツの2.9%、日本の3.5%と比較しても低い。また、投資内訳も特有で、公的研究には20%の雇用しか創出していないにも拘らず、36%もの支出を計上している(米国では25%、日本では22%)。さらに、フランスでは基礎研究への配分が他国に比べて多く、イノベーション製品や特許などの点で、十分な成果が得られていないことが浮き彫りにされた。

・Le Monde “La France face à un recul des effectifs dans la recherche et développement”(2014年1月28日)